

平成30年度実施 大規模事業の実施状況の確認

資料5-2

■ 基本事項

項目名	草津川跡地整備事業、管理運営事業(区間2、5)	担当部署	建設部 草津川跡地整備課
-----	-------------------------	------	--------------

■ 事業概要(実施内容)

事業の背景	(施設整備の背景は?実施に至った経緯は?) 平成14年に新草津川の通水がはじまり、市街地に広大な草津川跡地が生まれ、この空間を今後のまちづくりを進めていくうえで、重要な資源であると考えた。 このことから、草津川跡地の整備を第5次草津市総合計画に位置付け、当該跡地の恒久的な利活用を行うため、平成23年5月に草津川跡地利用基本構想を策定し、平成24年10月に草津川跡地利用基本計画を策定した。 その後、基本計画に基づき、優先整備区間である区間2(メロン街道～浜街道)と区間5(JR琵琶湖線～市道大路16号線)の基本設計、実施設計を行い、平成26年度から造成工事に着手し、草津川跡地公園として平成29年4月より供用を開始した。
事業の対象	(施設利用者の対象、範囲となる人や物は何なのか?) 草津川跡地の区間2および区間5を都市公園として整備し、市内外の公園利用者全てを対象とする。
事業の目的	(この事業によって対象をどのような状態にしたいのか?) にぎわいの創出や人と自然がふれあう憩いとうるおいがある空間とするため、草津川跡地を「琵琶湖と市街地を結ぶ緑軸」として、都市の環境・景観を高め、市民の交流やコミュニティ活動の場を整備することを目的とする。 さらに、災害時においては、一時避難地的役割を担い、広域防災機能を強化・補完するため、緊急輸送道路として琵琶湖湖岸道路から国道1号の間をつなぎ、活用を図る。
事業の内容(取り組み)	(施設整備後、これまでどのような内容の事業を、どのような手法・やり方で実施してきたのか?) 草津川跡地公園の供用開始後、公園の管理運営を指定管理者に委託している。 管理運営会議において、公園の維持管理やイベントを企画・実施している。また、公園を市民活動の場として利用していただくためのコミュニティを醸成するため、市民活動にかかわるコーディネーターを配置し、にぎわい創出に向けた事業実施している。

■ 施設整備費の実績額

		施設整備費の財源内訳					施設整備の内訳・詳細	
事業費(千円)		合計	国県	市債	その他	一般財源		
	決算・予算額	5,730,453	3,080,614	1,907,200	81,000	661,639	工事費	3,250,007千円
							用地費	1,956,780千円
							設計費等その他	523,666千円

■ 施設整備後の予算・決算状況(維持管理費、イベント開催費等の全体事業費)

		平成30年度当初予算の状況					平成29年度決算額の状況・実績				
事業費(千円)		合計	国県	市債	その他	一般財源	合計	国県	市債	その他	一般財源
	決算・予算額	111,760	0	0	21,738	90,022	104,679	0	0	23,983	80,696
内訳・詳細		草津川跡地公園管理運営費 111,760千円 <内訳> 公園維持管理運営業務指定管理料 106,203千円 人件費 2,143千円 その他事務費 3,414千円					草津川跡地公園管理運営費 104,679千円 <内訳> 公園維持管理運営業務指定管理料 97,576千円 人件費 2,279千円 その他事務費 4,824千円				

■ 事業所管部署による評価

	評価	項目	評価の理由・評価に関する説明
必要性	4	市民ニーズが高い	草津川跡地を最大限に生かした整備をすることで、草津市の都市価値を高め、魅力的なまちづくりを進める必要がある。
	4	市の他の政策よりも優先的に実施すべきである	
	4	対象および内容が類似する事業がない	
妥当性	-	法令により実施することが義務付けられている	本公園の整備について、第5次草津市総合計画のリーディングプロジェクト事業として位置付けられており、市民の憩いの場だけではなく、災害時の避難場所として活用できるように整備をした。
	-	法令に定められた市の責務を具現化して実施する事業である	
	4	上位計画に明確に事業が位置づけられている	
	4	国・県・民間の類似サービスと重複していない	
	4	市民の基本的生活の維持・確保に必要な事業、または内部事務である	
効率性	4	他の手法に比べて効率のよい事業手法である	整備費用については、国および県から補助金を活用し整備を行ったため、市の財政負担の軽減を図ることができた。 維持管理運営費用について、平成29年度が初年度であったため、今後の公園運営にあたり、利用状況やニーズを適切に把握しながら検証していく必要がある。
	3	コスト削減の余地はない	
	-	受益者一人当たりのコストは適正である	
	-	受益者負担や補助の割合に問題はない	
継続性	4	事業を継続することで、さらなる効果が見込まれる	草津川跡地公園(区間2)および(区間5)を優先整備区間として整備を行ったが、市民活動のさらなる定着とにぎわいの創出が継続できるよう取り組む必要がある。
	2	所期の目的を達成しておらず、引き続き実施する必要がある	
	4	社会状況の変化に対応した事業内容である	
成果	4	当該年度の事業目的を達成できた	平成29年度、草津川跡地公園(区間2)および(区間5)において多くの方に利用いただき、にぎわいの創出を図れた。また、利用者満足度調査を実施したところ、9割の方より「満足」、「やや満足」との回答を得た。
	4	受益者の評価が得られている	
	4	費用対効果大きい	

↑ 次の4段階により該当する数値を記入してください。

(「4」よく当てはまる。「3」およそ当てはまる。「2」あまり当てはまらない。「1」ほとんど当てはまらない。「-」評価が困難。)

■ 事業実施効果および課題、将来展望

事業実施効果	<p>平成29年4月に開園した草津川跡地公園において、新たな店舗を設置し、また、緑あふれるガーデンや、芝が広がる多目的広場等により新たな集客の拠点地として確保できた。 また、本公園において市民活動の場として利用していただいたことで新たなコミュニティを醸成することができた。</p> <p>公園年間来園者数:区間5 約60万人 区間2 約10万人 計約70万人 視察 講演等:19件</p>
事業に対する市民や利用者の意見、反応	<p>草津川跡地利用基本構想の策定段階において、市民アンケートを実施し、草津川跡地の整備の必要性について、8割以上の方が必要であると回答を得ている。 また、公園供用開始後に利用者に対して調査をしたところ、公園を利用した全体的な満足度について、9割以上の方より「満足」「やや満足」と回答いただいた。</p>
事業の今後の課題、将来展望	<p>草津川跡地公園がさらなにぎわい、また、人と自然がふれあえる憩いとうるおいがもたらす魅力的な空間となるよう、本公園の関係者とともに運営していく必要がある。 このことから、市民団体や事業者で構成している草津川跡地公園運営会議において、それぞれの役割で公園管理に携わることにより、本公園の価値を高め、より多くの人に利用していただき、皆さまに満足してもらえるような公園を目指す。</p>